

# テーマは「挑戦！」

平成20年の干支は、「戊子」です。十二支の始めの「ね」は、新しい物、生命の始まりを意味しています。そこで、今号の新春インタビューのテーマを「挑戦」としました。

平成20年の幕開けに際し、平成19年に創立百周年を迎えた南宇和高等学校生徒会役員の方々に、平成20年度の行政運営の方針について、谷口町長にインタビューするという形で新春インタビューを行いました。その主な内容をお知らせします。なお、この企画は、住民と行政、それぞれの能力や特性を活かし「ともにあゆみ育て創造する町」の実現を図るため、組織の舵取り役である谷口町長の行政運営に対する思いを、皆様にお知らせするために開催したものです。



## これからの雇用対策について

(今川) 僕たち高校生も3年生になると、進路や就職等、地元に残りたいという気持ちはあっても、就職先が少なく残れないという状況です。町として、どんな対策をしていますか。

(町長) そうですね。雇用対策については、町の人口や少子高齢化も大きく影響をしていると思います。人口が減ると、地域経済の生産性が低下し、職種の豊富な都市部への人口流出が進みます。これは、全国的に同じような状況で、地方に暮らす私たちにとっては非常に厳しい状況です。

町の人口も、毎月発行しています



町長 長治 答

広報「あいなん」でお知らせしていますが、現在の人口も合併当初から比べると、1,951名減少し、26,832名(平成19年11月1日現在)になっています。

先程、今川くんが言ったように、自分の気に入った就職先がないために、若年者の労働力が都市部に流出しているという現状で、その結果、ますます地域経済が低迷するという悪循環が続き、人口減少に拍車をかけていると考えています。

また、皆さんが中学生の頃だと思いますが、平成17年3月に松下寿一本松工場が閉鎖し、多くの従業員が職を失うという深刻な事態が起こりました。そのため、町

としても、離職者の方で本町に残りたいという方を、どのようにサポートしていくかということで、

国や県の協力も得ながら「町雇用促進協議会」を設置しました。この協議会は、

当初、専属の職員で松下寿の離職者対策として、主に再就職の斡旋を行っていましたが、約1年半でほぼ100%の方が再就職できたという報告を受けていま

す。この他、公共事業の削減等による離職者の再就職についても、順次、就職先の情報収集及び斡旋を行っています。多くの問題を抱えていると認識しています。しかし、漁業や農業で汗して働いてみようと思う方には、就職先もあるということを知ってほしいと思っています。

また、町内の企業の方に伺うと、高速道路がないために輸送コストが掛かり、新たな企業が進出しにくいというお話をいただきます。高速道路の整備に関連して、四国と本州を結び高速道路の通行料金が高く、四国内の製品は少しずつ高くなって流通するといったハンディを背負っています。そのため、通行料金の値下げや高速道路の整備等、基礎的な社会資本整備の遅れを取り戻すため、今後積極的に国や県、関係団体に、その改善をお願いしていきます。

## 地域経済の活性化について

(岩城) 地域経済の活性化に向けた取り組みで、特に力を入れていくものはどんなことですか。

(町長) 現在、水産業では、かつおやぶり、愛南かき等、季節に応じた新鮮な品々を愛南町で味わっていただくのと、JR四国と提携して「ぎょショップ・ツアー」を開催しています。農業の面でも、河内晩柑の呼び名を統一して「愛南ゴールド」というブランド名で売り出そうとしています。また、

養殖の鯛は、量も質も日本一だと思っていますし、このような豊かな自然環境の中で生産された特産品を「愛南ブランド」として位置付け、松山三越店を始め、県内外で、新鮮な水産加工品や農産品等をPRする「愛いっばい愛南産直市」を開催するなど、消費地である都市部へのPR活動を積極的に推進しています。また、付加価値を付けた特産品開発や物づくりの営みをセットでアピールする仕組みとして、愛南グリーン・ツーリズム研究会の方々による農漁家民宿も行われています。

最近では、消費者の方も、老舗の商品偽装問題もあり、体に良く安全な食べ物求めていきます。私は、始めは二人、三人の方からでもいいと思います。衛生管理の整った施設で、アイデアを持って付加価値を付けた水産加工品等の開発に取組んでほしいと思っています。

今後、町としても、安全で安心な「愛南ブランド」は「健康に良く、美味しい食べ物」という地域イメージの確立ができるよう、今後も積極的なPR活動を行っていきたくと思っています。

## これからの環境対策について

(中尾) 私は、環境問題に関心を持っていますが、愛南町ではどんな取組みをしていますか。

(町長) 私は、美しい自然を活かした



岩城 隼くん

特産品をアピールする上でも、山や川の環境を守ることが大切で、その結果として海の環境も良くなると思っていますし、自然環境の保全是重要だという認識を強く持っています。

そのため、町の環境対策としては、今まで防疫用薬剤の配布事業を行っていましたが、有害な物質を川に流すことにもなりますので、平成20年度からは、川を浄化する有効な手段として注目されている環境浄化微生物「えひめAI-2」を配布する方向で検討しています。また、平成19年度から実施している浄化槽設置整備事業では、改造分について町単独で上乘せ補助をしています。平成20年度も継続して、合併処理浄化槽の普及啓発に努めていきたいと考えています。住民の皆様も、ボランティアグループの方々による不法投棄ごみの回収等、清掃活動を行っていただいています。とてもありがたい

いことだと感謝しています。大切なのは、私たちの生活の中から出るごみの適正な処理、環境保護に対する住民の方々の意識を高めていくことが重要だと感じています。そのため、平成19年度から各公民館単位を基本にした「環境学習会」を順次、開催しています。その中で、様々な環境問題について話し合い、住民と行政が問題意識を共有していかなければならないと考えています。

このような行政の取組みと、住民の皆様への郷土愛が、相互に作用することで、他に誇れる美しい愛南町の姿が生まれると期待しています。

今年の抱負は、**ひたむきな取り組み**。

(町長) 皆さんは、生徒会の役員ですが、創立百周年ということでも、各種行事で忙しいでしょう。振り返って見ると、私が高校生の時に創立50周年で、久松愛媛県知事がお話に来たのを覚えています。とても懐かしく思いますね。

それでは、皆さんの今年の目標があれば、聞かせてほしいと思います。始めに今川くん、どうですか。

(今川) 創立百周年の記念式典や文化

祭、吹奏楽部の記念コンサート等、私たちも、このような節目に在校生であることを大変うれしく思っています。個人的には、進学を希望している中で、勉学の方に力を入れていきたいと思っています。

(町長) そうですか。来年4月からは西海支所内に、愛媛大学の南予水産研究センターが設置されます。愛媛大学としても、農学部水産学科という位置付けで、教授や学生の皆さんとの活発な交流が行われるだろうと思います。将来、皆さんのような地元の高校生が学べる環境ができるかもしれませんね。岩城くんは、どうですか。

(岩城) 僕も、来年は受験があります。後悔のないよう勉学を頑張りたいと思いますし、決めた目標を確実にこなしていきたいと思っています。

(町長) 高校生活、最後の年になりますね。そして、創立百周年を経験する生徒さんですから、結果を残せるよう努力してください。中尾さんは、どうですか。

(中尾) 私は、進路がまだ決まっていないので進路を決定し、その目標に向かって努力していきたいと思っています。

(町長) 皆さん、頑張ってください。私



中尾 葵さん

は、本が好きでよく読みましたが、皆さんはどうですか。

(中尾) 私は、携帯小説をよく読みます。

(町長) そうですか。時代の移り変わりを感じますね。皆さんの先輩として、思うことをお話ししたいと思っています。私が皆さんの頃、高校生から大学生までは、規則正しい生活を送っていました。夜11時までには寝て、朝7時には起きるといって毎日、高校から家に帰ると晩御飯までは読書、食後は、7時から11時までの4時間、必ず勉強をしていました。当時は、夏目漱石が好きでよく読みましたし、毎日、淡々と4時間、勉強をしていたことを覚えています。

やはり、勉強の時間は4時間でも2時間でもいいと思いますが、定まったリズムというか、規則正しい生活を送ることが体にもいいし、勉強の効率も

上がるのではと思います。

皆さんとは、時代も違いますので参  
者にはならないと思いますが、目標を  
定めて頑張ってください。

### インタビューを終えて……

(今川) 町長さんに初めてお会いし  
て、威厳に満ちた姿に驚きましたが、  
会話を重ねるうちに、優しそつで大ら  
かな方だなという印象を受けました。

また、環境問題については身近に感  
じられるので、清掃活動等、生徒会が  
中心になって全校に呼びかけていき  
たいと思います。そして、お遍路さん  
や観光客の方に活気のある町というイ  
メージを持っていただけるよう、積極  
的にあいさつをしていきたいと思いま  
した。

(岩城) まず、町長室は意外と狭いな  
と思いました。町長さんの印象は、  
優しさと同時に、威厳を強く感じまし



今川 裕樹くん

た。また、新しい事業は、若い世代の  
僕たちが、チャレンジしていかなけれ  
ばいけないと感じましたし、校内のあ  
いさつ運動で、自分が見本になれるよ  
う頑張っていきたいと思いました。

(中尾) 町長室にも入れたし、いい経  
験ができました。高校生として、校内  
外でのあいさつを積極的に行い、親し  
みやすいまちづくりに参加していきだ  
いと思いました。

(町長) 皆さん、よろしくお願いま  
す。「若さ」というのは、絶対的な特  
権だと思えますし、若い方々は時代へ  
の適応力もあると思いますので、是  
非、行動を起す勇氣を持って、それぞ  
れの目標に向かってチャレンジしてほ  
しいと思います。

本日は、新年号として、このような  
企画をさせていただきました。ご参  
加、本当にありがとうございました。

新春インタビューに  
参加した方々です

生徒会長

今川 裕樹 (2年)

生徒会副会長

岩城 隼 (2年)

中尾 圭 (2年)

愛南町長

谷口 長治

